

一 無作の<sup>おうじん</sup>応身我等凡夫也と云ふ事

仰せに云はく、釈に云はく「凡夫も亦<sup>さんじん</sup>三身の本を得たり」と。此の本の字は応身の事なり。されば本地<sup>む さ ほんがく たい</sup>無作本覚の体は無作応身を以て本とせり。仍って我等凡夫なり。応身は物に<sup>かな</sup>応ふ身なり。其の上寿量品の題目を唱へ出だし奉るは、真実に応身如来の慈悲なり云云。